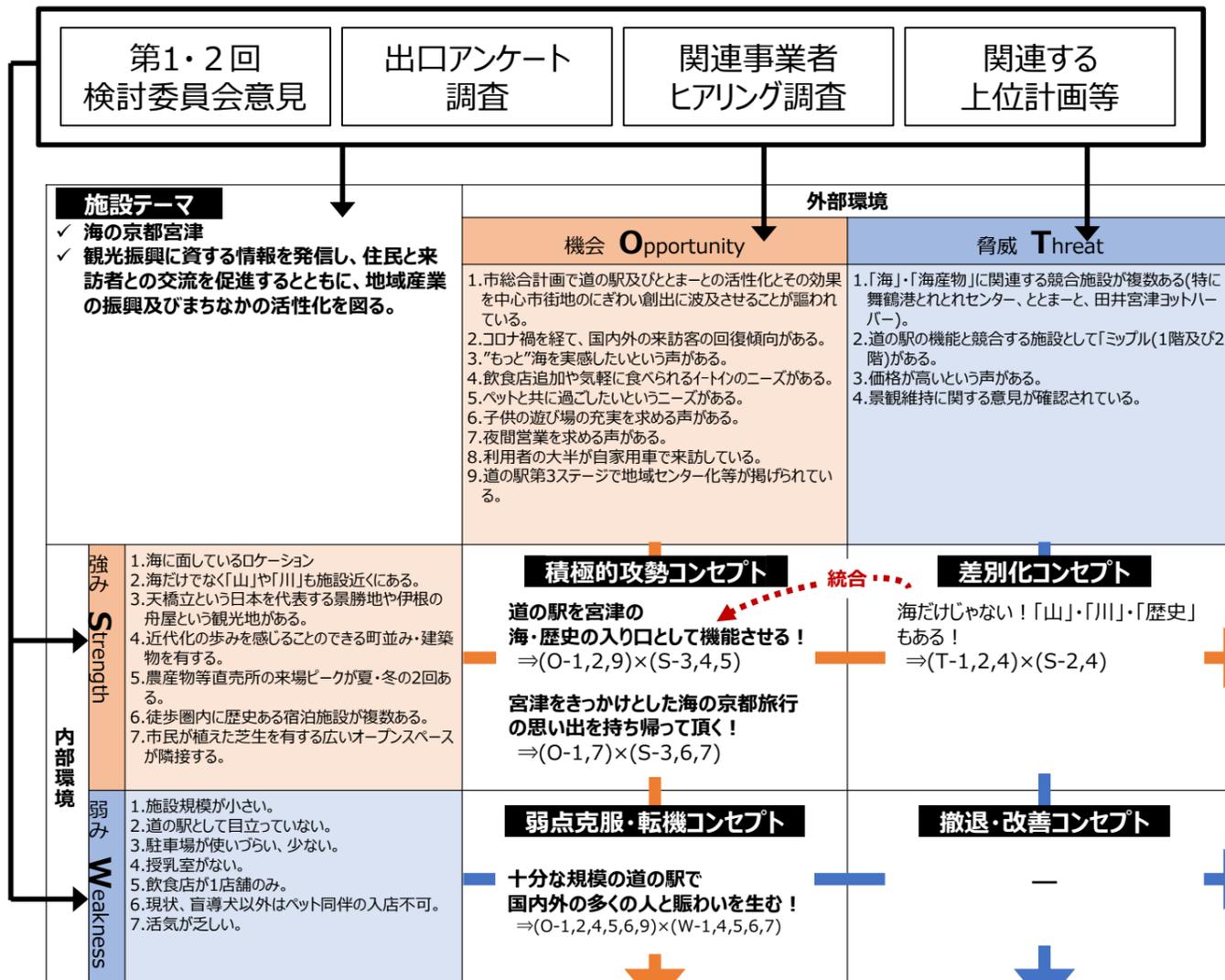
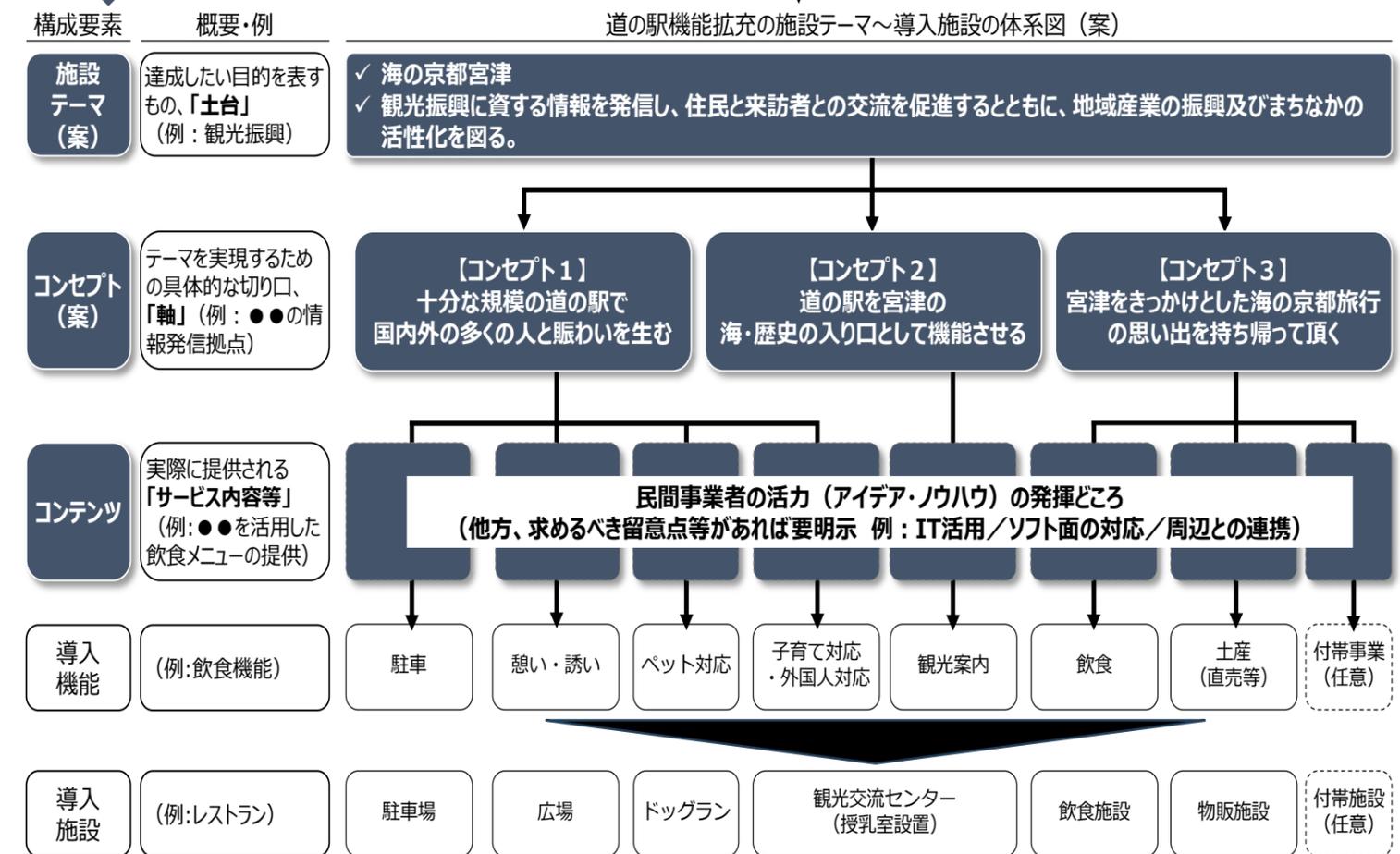


テーマ・コンセプト等の検討状況

- 過去 2 回の検討委員会を含むこれまでの検討結果で得られた主な情報をインプットとした「SWOT・クロス分析」を行い、**施設テーマ（案）・コンセプト（案）等を検討**しました。
- 次に、当該施設テーマ（案）を具体的な導入施設に繋げるまでの構成要素等を整理・検討し、結果を体系図の形で可視化しました。
- なお、「コンテンツ（内容）」の検討は民間事業者の活力（アイデア・ノウハウ）の発揮どころであるため、提案の自由度を与えることが重要です。他方、求めるべき留意点等があれば公募時に事業者に明示することで、市として望ましくない提案を受けるリスクを回避しやすくなります。



- 「海の京都宮津」等のテーマ（土台）を具現化する際のコンセプト（軸）の案は下記の3つです。
 - コンセプト 1：十分な規模の道の駅で国内外の多くの人と賑わいを生む
 - コンセプト 2：道の駅を宮津の海・歴史の入り口として機能させる
 - コンセプト 3：宮津をきっかけとした海の京都旅行の思い出を持ち帰って頂く
- また、上記コンセプト（案）及び対象敷地・既存施設の現状等を踏まえ、導入機能・導入施設の案を検討・整理しました。
- 民間事業者には、コンセプトに基づき各導入機能を具現化する**コンテンツ（内容）**について、**ノウハウを発揮した効果的な提案を期待**します。



- これまでの検討結果から、「海の京都宮津」や「観光振興に係る情報発信」という現在のテーマ相当への否定的な意見はなく、「**利用者等が連想するイメージと実際に提供されるサービス・施設内容とのギャップに物足りなさを感じている**」点が問題と捉えます。
- この要因は、テーマ（土台）とコンテンツ（内容）・機能・施設の間を繋ぐ**“コンセプト（軸）”**が不明瞭であることと考えます。
- そこで、**上位計画や出口アンケート調査結果等をインプットとした「SWOT・クロス分析」**を行い、テーマの具現化に繋がるコンセプトを検討しました。
- その結果、上図に記載する**「3つのコンセプト」**を案として整理しました。